

獨協 通信

題字・天野貞祐

第 105 号
令和 7 年 12 月 20 日発行
発行所 〒 112-0014 東京都文京区関口3-8-1
TEL / FAX 03 (3946) 6352 (直通)
獨協同窓会 発行責任者 竹内文生

主な内容

永井伸一元校長先生を偲んで	塩瀬 治	(1)
令和 7 年度通常総会報告		(2)
令和 7 年度同窓会親睦会報告	行川恭央	(3)
令和 7 年度総会前特別講演会報告		(4)
獨協祭参加報告	茂呂親利	(4)
目白だより 現役生徒からの寄稿		(5)
畦森さんへのインタビュー	高野宗之	(7)
獨協ぶらり旅	鍋屋剛志	(8)
こんなところに獨協人	鍋屋剛志	(9)
初代顧問山田直巳先生と共に 鉄道研究部OB会	沖山秀司	(10)
クラス会だより		(13)
私の近況		(18)
編集後記	鍋屋剛志	(20)



<https://www.dokkyo-mejiro.com> <https://www.facebook.com/groups/297418860299984/>

永井伸一元校長先生を偲んで

塩瀬 治 (昭和 52 年卒)

永井先生とは初めてお会いしたのは、ドイツで蜂の研修会でお知り合いになった玉川大学松香先生にご紹介頂いた時でした。松香先生は世界子孫代理人会 (WARD) という未来の子孫により良き地球環境と社会を創設する理念をもつ団体の会員で、そこに永井校長も居られました。

当時私は前任校で校長でしたので、久しぶりに母校の校長先生にお会いしたという感激がありました。その後、永井先生のご推薦も頂き獨協に勤務が決まったのは、強いご縁を感じました。「獨協での環境教育・人間教育をさらに進めてほしい」というご期待に応えるよう永井先生の始められた、簡易栽培装置による屋上野菜栽培、ゴーヤの緑のカーテンプロジェクトには楽しく仕事ができ、武蔵野のミニ里山を復元するビオトープにヘイケボタルが継続的に生育できるような活動や、ドイツの緑が学校を作るという環境団体のコンセプトをヒントにした獨協の森プロジェクトにも関わることができました。聖園幼稚園と本校グラウンドの間と、本校とグラウンドの間に 2011 年、120 人の生徒たちと 41 種類の稚樹を 300 苗植えましたが、現在、木陰と涼風をもたらす豊かな林道の一部に成長しています。永井先生は人間と環境の相互作用から、

より豊かな関係をどのようにして作れるか、その作業を通してこそ血の通った意義ある人間教育の実践になるという強い信念を持たれています。小学生対象の土壤生物の授業から福祉施設での講演までをも含め、幅広い教育実践活

動は校長自ら社会に貢献していくという貴重な実践を数多く行わっていました。その行動力はワンマンと評されることもある中で、確かな意味を獨協の教育史に刻まれました。

獨協中学高校の未来に永井先生が祈りを込めて創られた獨協の森の道を通う度、その深い思いに強く共感します。

永井先生のご功績に心からの敬意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



令和7年度 通常総会 報告

令和7年度通常総会は、6月21日（土）午後4時15分より、母校小講堂にて開催されました。当日は執行部をはじめ33名が出席し、委任状は207通受理いたしました。開会に先立ち、昨年度総会以降にご逝去の報を受けた物故会員51名に黙祷を捧げました。その後、「独協通信104号」でご案内した第1号議案から第5号議案までを審議のうえ承認いただきました。

令和6年度～令和7年度の概要

（詳細は独協通信104号をご覧ください）

【第1号議案：令和6年度事業報告の件】

- 通常総会および総会前特別講演会、ならびに椿山荘にて親睦会を開催した。
- 通常総会において竹内文生氏が新会長に選出された。
- 年2回、アルカディア市ヶ谷にて幹事会を開催した。

【第2号議案：令和6年度収支決算の件】

- 収入額 ￥14,943,051円
- 支出額 ￥15,794,608円
- 収支差額 ▲￥850,657円

【第3号議案：会報の郵送回数変更の件】

- 会報「独協通信」の郵送を年1回（春号）とする。
- 当面は会費納入者に限り年2回郵送し、それ以外の方には年1回の郵送とする。

【第4号議案：令和7年度事業計画案の件】

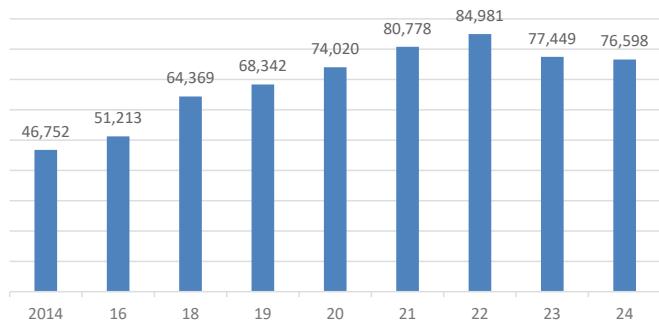
- 会費納入率向上のため、公式LINEアカウントによる情報発信や、「独協通信」での自動引落による納付案内を継続。
- 6月総会後の親睦会については、財務健全化の観点から参加費を見直す。
- 獨協祭への参加、OB講演会の開催を継続。
- クラス会等への補助金については、人数規模に応じて増額措置を継続する。

【第5号議案：令和7年度収支予算案の件】

- 収入額 ￥15,230,000円
- 支出額 ￥14,054,000円
- 収支差額 ￥276,000円

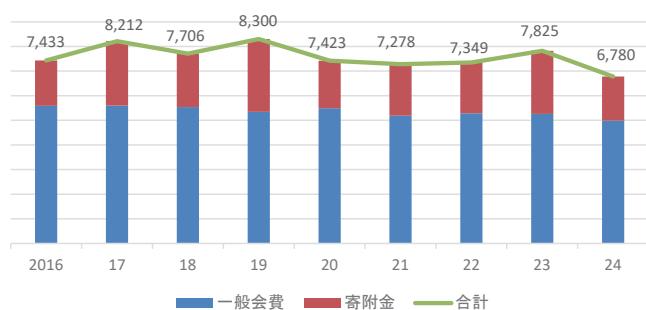
資産の推移

単位：千円



一般会計と寄付金の推移

単位：千円



収入と支出の推移

単位：千円



令和7年度 同窓会 親睦会 報告

幹事長 行川 恭央 (昭和63年卒)

総会終了後、母校から椿山荘に場所を移し親睦会が行われました。吹奏楽部の演奏で迎えられ、竹内文生会長挨拶、鈴木莊太郎さん（昭和35年卒）の乾杯で開会しました。ご来賓、ご列席者を代表して猪口雄二獨協学園理事長（昭和48年卒）、坂東広明獨協中学高等学校校長、上田善彦前校長（昭和47卒業）にご挨拶頂きました。

昨年に続き今年の親睦会も、3月に卒業したばかりの同窓生にたくさん参加頂きました。また、昭和34年卒業の「絆の会」27名もお元気に参加され、フレッシュな同窓生から大先輩まで親睦会場は大賑わいでした。

当日ご参加頂きました方々からスマイルボックス（同窓会活動に対する寄附）や在学生のクラブ活動に対してたくさんの支援を頂きました。「絆の会」の皆様からは同窓会に対して多額の寄附を頂きました。皆様のご厚志に改めて御礼申し上げます。（7ページに関連記事）

同窓生同士や母校の先生方との親睦を深め、最後は全員で校歌を合唱して閉会しました。来年（令和8年）は、6月20日（土）に同じ椿山荘で開催する予定ですので奮ってご参加ください。新卒業生は無料招待いたします！



挨拶する竹内文生同窓会長



挨拶する
来賓の坂東広明獨協中学高等学校校長



活動報告をするアーチェリー部員



若い同窓生で賑わう親睦会

その他、総会・親睦会当日の同窓会トピック（報告）

同窓会奨励賞を授与 学校から推薦を頂き、同窓会から活躍された在校生2名と1団体に対し同窓会奨励賞を授与しました。

- ・スキーコース 高校1年 吉田充希さん（全国大会出場）
- ・アーチェリー部 高校3年 河西大心さん（全国大会出場）
- ・英語ディベート部（多くの生徒の表彰実績、ワールドスカラーズカップで好成績。）

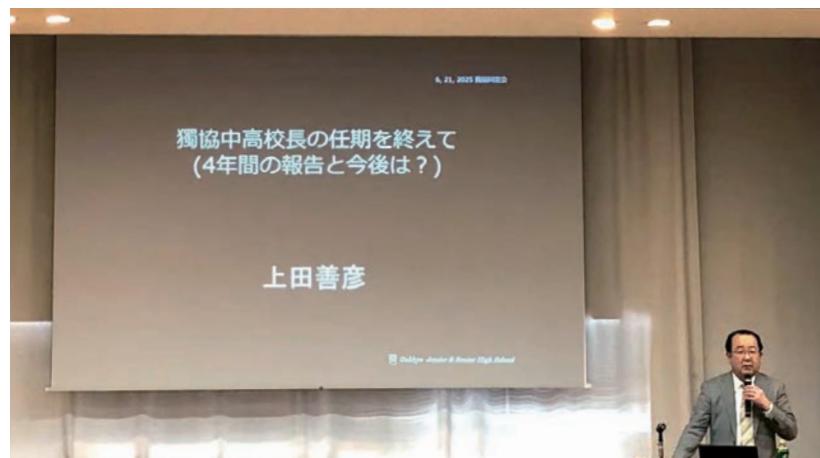
同窓会から学校に対して図書費を贈呈

皆様から頂いた会費をもとに母校の図書充実を支援するために、竹内会長から坂東校長に図書費200,000円を贈呈しました。

令和7年度 総会前特別講演会

総会前特別講演会は、この3月まで獨協中学高等学校で校長を務めた上田善彦氏（昭和47年卒業）に「獨協中学・高等学校校長の任期を終えて」を演題に講演頂きました。校長職にあった4年間の取り組みを中心に獨協人生を振り返り、コロナ禍の厳しい環境の中で取り組まれた獨協中学高等学校の教育改革についてなどお話を頂きました。

総会前特別講演会での上田善彦氏
(獨協中学高等学校前校長)



獨協祭 参加報告

広報委員長 茂呂親利 (平成8年卒)

9月20・21日に開催された獨協祭は大盛況のうちに終了しました。今年のテーマは「Voyage」。単語としての意味は航海、長旅を意味します。中学、高校を経て世に出る皆さんのが人生という名の長旅をどのように過ごすのでしょうか。

今年は絵本作家の斎藤洋さん（昭和46年卒業）にお越し頂き、卒業生だけでなく絵本を読んだ子どもたちが斎藤さんを囲んだ写真撮影を行う姿が多く、出版された本の一部は図書館へ寄贈されることとなりました。

また、毎年好評の記念写真プリントサービスには例年以上に待ち行列が発生し、学生服を着た皆さんのが楽しそうに撮影されている姿が多数見受けられました。

同窓会展示教室は獨協のあゆみが展示され、歴史を感じ取るコーナーもあれば、部活の活動報告などもあり、展示物を見ながら今昔模様を感じることができます。

身近な同級生と共に、たまには同窓会展示教室へ足を運んでみませんか？





中学Ⅰ年 臨海学校

今日は待ちに待った臨海学校！！ 楽しみなところもありましたが不安なところも少しありました。

1日目は着いて早速海で泳ぎました。海の水はショッパで何度も飲んでしまい嫌になりましたが、海の水は暖かく泳ぎ切ることができました。間の時間では班のメンバーで「大富豪」をやったり、他の班で集まって人狼もやったりしました。1日目の夜はなんとなく疲れなかったです。

2日目はまず、貝を拾いました。貝拾いでは浜にある貝を拾い、夜の学年会で貝を使いクラフトを作成しました。午前と午後は基本的に海で泳ぎました。午前の海は潮が引いていて黄色の飛び台まで足がつきました。午後はシュノーケリングをやって海の中を見ることができ、とても楽しかったです。最後にスイカを食べました。スイカはケビンが割ってしまいました。（割りたかった）みんなで食べるスイカは特別に美味しかったです。間の時間では「犯人は踊る」というカードゲームを班のメンバーでやりました。2日目の夜は班のみんなで夜ふかしをしようと決めていましたが、昼間の疲れで11時くらいに寝てしまいました。

3日目は、自然観察をしました。きれいで高い断層には昔海軍の船が海から大砲を撃って練習をしていました。

中学Ⅰ年3組 28番 宮田 樹

た跡がありました。もう一つ戦争に使う基地があり、その2つの戦争遺跡は見て、少し興奮している人がいました。（笑）自然の中は涼しかったです。また、最後洞窟の中に入りましたが、虫がたくさんいて少し入ってギブアップしました。昼食は、道の駅・富楽里で食べ、お土産も買いました。昼食は5人で食べました。僕はマグロ丼とソフトクリームを食べました。お土産は選ぶのに時間がかかり時間ギリギリで終わりました。最後はバスに乗って学校に帰りました。

僕は臨海学校を通して友達ともっと仲が良くなつたと思いました。



中学Ⅱ年 臨林学校

僕は林間学校を振り返って、とても充実した三日間だと思った。

一日目は、「池の平」でカメラを使った自然観察の予定だったのですが、雨により途中でバスに戻ることになってしまった。その後、日新寮に着き、荷物を整理したら、カレー作りをした。先生の話を聞いた後、それぞれの班で火起こしをし、鍋で具材を炒め、カレー作りに入ったが、特別遅い班もなく、終わり次第スムーズに入浴をして一日目を終えた。

二日目は朝から黒斑山を三つの組に分かれて登った。急な道ではあったが、景色もよく、鹿を見た組もいたりして、楽しむことができた。

日新寮に戻ったら、バーベキューの時間まで、水鉄砲などで遊び、バーベキューでは、焼いたものを分けたりした。

三日目は懐古園や松井農園でマス釣りとブルーベ

中学Ⅱ年3組 18番 菅原 更



リ一狩りをし、お土産を買って、映画を観ながら帰ったので楽しい思い出ばかりだった。

私は林間学校を通して、自然を守っていくことと、仲間と協力し合うことが大事だと思うようになりました。

まず、自然を守っていかなければならぬと思った理由は、池が小さくなっていると聞いたからです。私はそのことを聞いて、どうして小さくなっているのかということと、小さくなっていることにとても驚きました。また、湿原の自然を守るために木道があるのだと気づきました。

次に、仲間と協力し合うことが大事だと思った理由は、BBQで自分のできない事を仲間が手伝ってくれたからです。例えば、自分が具材を焼いているときに、仲間の分の白米をよそってくれたり、炭の状態を調節してくれたりしました。

このことから私は、自然を守ることと、仲間と協力することが大切だと感じました。これから私は仲間を大切にし、自然を守るボランティアなどに参加しようと思いました。

世界へ続く挑戦—World Scholar's Cup の歩み

英語ディベート部

今年もまた、私たち英語ディベート部は World Scholar's Cup 東京予選を突破し、韓国で行われた Global Round に出席することができました。思えば、初めてこの世界大会に参加したのは 2017 年のことです。そこからコロナ禍という大きな壁を乗り越え、2022 年以降は再び毎年のように世界の舞台へ挑戦し続けてきました。

当初、部員たちの目標は「世界大会に出場すること」でした。見知らぬ国の学生たちと英語で議論し、知識を競い合う——それだけで胸が高鳴る夢のような目標でした。しかし、経験を重ねるうちに、彼らの視線はさらにその先へと向かうようになりました。それが、アメリカ・イェール大学で開催される Tournament of Champions、通称「TOC」です。各世界大会の上位 25 パーセントに入らなければ出場できない、まさに“世界の頂点”を目指す大会です。

そして今年、ついにその出場権を手にしたチームが現れました。韓国大会での健闘の末に届いた吉報に、部員たちはもちろん、顧問一同も飛び上がるほどの喜びに包まれました。

これまで、私たちは世界大会に参加するたびに、多くの同窓生や関係者の皆さまから温かいご支援をいたしました。その励ましがあったからこそ、挑戦を続けることができたのだと思います。心からの感謝を込めて、この場を借りてお礼を申し上げます。

11 月には、いよいよイェール大学での大会が待っています。これまで積み上げてきた努力を信じ、支えてくださった皆さまの思いに恥じぬよう、全力で新たな 1 ページを刻んできたいと思います。舞台は世界へ。私たちの挑戦は、これからも続ていきます。



戦中を生き、歯科医として時代を築いた 畠森公望さん(昭和20年5年制卒)

高野宗之(平成8年卒)

昭和20年、戦争の終結とともに獨協中学5年制を卒業された畠森公望さん。現在97歳ながら、つい数年前まで診療に立たれていたというその姿勢には驚かされます。今回、獨協同窓会では貴重な戦中・戦後を生きた同窓会の大先輩として、じっくりとお話を伺いました。

畠森さんが学んだ旧制獨協中学では、英語2クラス、ドイツ語3クラスという編成で、ドイツ語を学ばれていました。当時の獨協では、戦時中にもかかわらず授業が続けられ、戦況が悪化する中でも学問に励んだ記憶を語ってくださいました。しかし中学4年になると学徒動員により十条の軍需工場へ赴く日々が始まり、学業を中断せざるを得ない状況もあったそうです。敗戦により、中学の制度が変更され、当時4年生は、卒業まで残り1年の学校生活を過ごすことなく突然卒業となつたそうです。畠森さんは、当時の4年生の戸惑いがどれ程のものであったのか今でも思い出されるとのことです。

終戦後は東京歯科大学へ進学。最高裁判所の診療所に勤務する機会を得たのは、先輩のご縁によるもの。最高裁判事やその家族を診療する責任感の重さを語りつつ、その後は産経新聞社内の診療所へ。アメリカから輸入された歯科技術や材料の存在により、日本との技術の差を実感させられたそうです。

その後、池袋や六本木、相模原にも個人として診療所を開業されました。六本木の診療所で自費診療のみにこだわったのは「患者さんのためにやりたい医療を提供したい」という信念から。患者には芸能人や文化人も多く、合気道(50年)を通じた人脈も広がっていましたとのことです。合気道では現在の新宿区若松町の本部道場に通い続け、七段を取得。小唄や常磐津など、芸事にも深い関心を持ち、国立劇場の舞台に立たれたこともあるそうです。

畠森さんが何よりも大切にされてきたのは「気遣い」。相手に合わせて話題や話し方を変える、その柔軟さこそが医師として、そして一人の人間として大切だと語ります。

戦中を生き抜き、平和の時代を切り開いてきた畠森さんの言葉の一つひとつが、私たち後輩にとっての大きな学びとなる貴重な記録となりました。



昭和34年卒業「絆の会」総会懇親会に参加しました



昭和34年卒業「絆の会」
27名の皆様が勢揃いして記念撮影

(次ページにご寄稿文を掲載)

本年は昭和100年。これを記念し「絆の会」は食事会を企画しようと思っておりましたが、竹内会長よりお声がかかり久しぶりに懐かしい椿山荘で開催される同窓会総会後の親睦会に参加させて頂きました。25年前のミレニアム2000年では、還暦を記念して椿山荘に集まりました。当時の参加者は104名でしたが今回は27名の参加となりました。やはり時の流れには逆らえず25年の歳月はそれなりに心に浸みておりました。我々の学年は85歳を迎えますが、楽しく元気に過ごせています。これからも健康に気配りをし、米寿の会を開催出来るよう頑張りたいと思います。今回、竹内会長からお褒めの言葉を頂戴しましたので、これを励みにして同窓会の更なる発展に寄与し続けたいと思います。時代は変わります。世界も変わります。時代に流れぬよう、且つ新しい事に挑戦する素晴らしい学園であって欲しいと思います。獨協学園並びに獨協同窓会の更なる発展を心より願っております

くる年も 少しの美酒を楽しんで
ともに歩こう 行けるここまで

代表幹事：有我 昭藏



集められた参加費を同窓会への寄附として
竹内会長に手渡す「絆の会」会計の遠藤氏(左)



獨協ぶらり旅

鍋屋 剛志 (平成8年卒)

RAVANELLO

高村精一さん 昭和36年卒業

獨協通信103号の「獨協ぶらり旅」で紹介した昭和36年卒業の高村さんが営む自転車プロショップ「RAVANELLO(ラバネロ)」で、自転車を注文した同窓生がいるという噂を聞き、1年振りにラバネロに伺った。

ラバネロで自転車を注文したのは藤田浩二さん(平成13年卒)。伺った日の2週間前に納車されたばかりの愛車に乗って自宅のある荻窪から練馬区桜台のラバネロまで来ていただいた。

ご本人は、これまで自転車とは縁のない生活を送ってきたが、お母様がミニベロに乗っていることから、お母様にロードバイクをプレゼントするために自転車屋を探していたところラバネロに行き着いたという親孝行な藤田さん。

しかし、藤田さん自身がラバネロで試乗した「インペラトレ」という車種の乗り心地に感動し、お母様の自転車を注文する予定を急遽取りやめ、自分の自転車を注文してしまったという、このあたりが獨協生らしいところなのだろうか…。

藤田さん曰く、ラバネロの自転車は「ペダルを漕いだ分より、自転車が飛ぶように進む感覚」との事。

1年待ってようやく納車がされたのは2週間前。早速、試走を兼ねて青梅方面に行ってきたが、乗り心地は安定感があり最高とはご本人の談。

ラバネロの自転車はオーダーメイドなので、自分の希望通りの自転車に仕上げてもらえる。

愛車を一言でいうと、「クラシックと現代のスタイルの融合」。

クロモリ製の丸パイプフレームにカーボン製のフロントフォーク。そして、ディスクブレーキ。加えて、シルバーのラグがいいアクセントになっている。

ラバネロの高村さん曰く、藤田さんはパーツやデザインに対するこだわりが強かったので、自転車製作を開始するまでに時間がかかったとの事。

人生初めての自転車がラバネロ。うらやましい限りです。

最終的には、お母様のロードバイクも注文して、お母様の自転車が先に完成したそうです。

やはり獨協生は親孝行でした。





こんなところに獨協人

鍋屋 剛志 (平成8年卒)

友部 康志さん 平成5年卒業

「こんなところに獨協人」として、みなさんにご紹介したい人が、平成5年卒の友部康志さんです。

友部さんは、北区つかこうへい劇団に在籍していた経歴を持ち、舞台・ドラマ・CMなどで活躍される俳優さんです。

友部さんと演劇との出会いは獨協中学時代にまで遡ります。

友部さんは、獨協入学時に、当時ベンチプレスで軽々140kgの重量を挙げていた萩野先生が顧問の柔道部に入部しました。それと同時に、演劇部の顧問であった柳本先生が獨協に赴任した時に発足させた文化演劇委員会（のちの演劇部）も掛け持ちしていたとの事。しかし、演劇の方には顔を出さず、柔道部の活動を優先していたそうです。

恵まれた体格を生かし、柔道に汗を流していた友部さんであります。中2に進級後まもなく、ヘルニアで腰を痛めてしまい、惜しまれつつ柔道部を退部することになったとの事。

柔道の稽古の合間に、体育館の舞台上で文化演劇委員会の生徒が練習していたのを見るたびに（柔道の稽古がきつすぎて）演劇部は自由でいいなあと思っていたそうです。

友部さんは柔道部退部後、演劇に魅了されていきます。

友部さんが中3の時に、文化演劇委員会から演劇部に昇格することになり、初代部長は2学年上の大西孝明さん。当時の芸名が「デミー大西」。お笑いタレントのジミー大西氏よりも早く「デミー（ジミー）」の芸名を使っていたのは獨協の大西さんであるとの自負があるそうです。

演劇部では、劇団唐組（移動式テント劇場）・三谷幸喜氏主宰の東京サンシャインボーイズ・劇団新幹線、そしてご自身が在籍することになる、つかこうへい事務所の公演等に柳本先生に連れて行ってもらい、そこで演劇のいろはを教わったとの事。

当時の高校演劇の勢力図は、女子高が幅を利かせていたそうです。しかし、女子高生のそれは、笑いのない真面目一辺倒な演劇が多く、自由さを感じられなかつたとの事。

それに対し、獨協の演劇は、笑いの要素も含んだものであったそうです。例えば、柳本先生のアドバイスで、友部さんがアサヒビールのCMソングをバックに、マイクタイソンの格好で舞台に出ていたらとてもウケて、盛り上がったときの観客の反応が快感となり、演劇中毒になつたそうです。

友部さんが中3、デミー大西さんが高2で部長の時に、初めて出場した城北地区の大会で、獨協の演劇が



評価されず負けたことが、心底悔しかったそうです。

高1になった友部さんは、初めて演劇大会に出ることになりますが、その時も地区大会で負けてしまいました。しかし、その2回目の出場から獨協の演劇がいい意味で奇異な目で見られるように変わったように感じたそうです。他校は、型にはまっている演劇だったが、獨協の演劇は一風変わっているという評価をされだしたと感じたとの事。

そして、友部さんが高2の時に、地区大会、東京都大会を勝ち進み、ついに高3の春に沖縄での全国大会への出場を決めました。

それは、顧問の柳本先生を始め、美術の渡辺哲之先生、そして演劇部の生徒全員で作り出した演出・脚本と生徒一人一人の個性を見いだし、適切な役割分担をした柳本先生の手腕が評価された結果だと友部さんは言います。

高校卒業後は、東京学芸大学へ進学し、柳本先生の紹介で出会ったつかこうへい氏を師事し、役者の道をスタートさせることになります。

獨協に入学し、柳本先生に出会ったことがきっかけで役者の道へ進んだ友部さんのお話を聞きながら、人との出会いに関して奇跡のようなものを感じずにはいられませんでした。

紙面の関係ですべてを書けないのが心苦しいですが、ここに収まらない程多くのお話をさせていただきました。

その情景が目に浮かぶような友部さんの語りぶりは、さすが役者さんだなあと思いました。これからも益々のご活躍を祈念しております。

X : @yasushitomobe
Instagram : @yasushi_tomobe

初代顧問 山田直巳先生と共に

鉄道研究部OB会

沖山秀司（1974 昭和 49 年卒業）



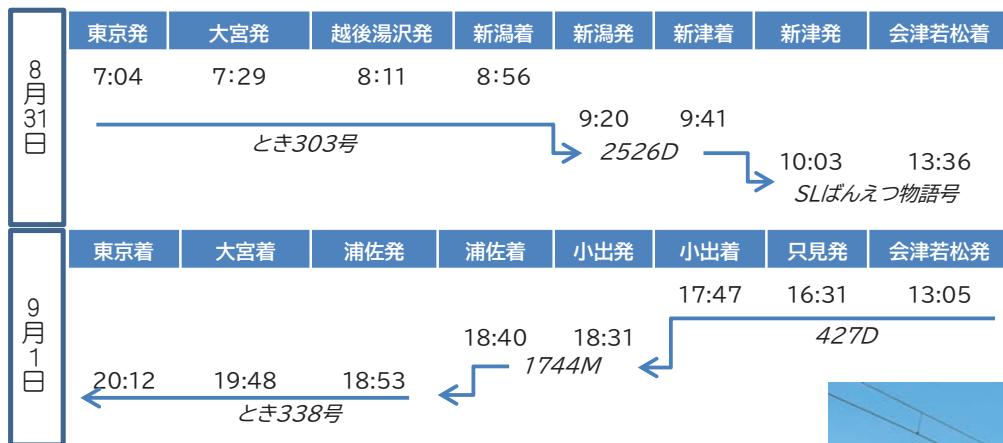
1970 年 10 月 14 日 鉄道開業 98 年目の鉄道記念日に「鉄道同好会」として創部しました。

この時、顧問を引き受けてくださったのが、山田直巳先生でした。

山田先生からは「創部して活動費を頂くからには、趣味（遊び）の集団ではいけない！」とご指導頂き、【鉄道を通して社会研究を行う】を目的に定めました。そして、毎年獨協祭のテーマを決めて夏合宿を行い、赤字で運行本数が減らされるローカル線を取材し、地域住民にインタビューした内容を発表するなどの活動を続け毎年のように奨励賞などを受賞し、1974 年に同好会から鉄道研究部に昇格を果たしました。そして、74 年は名古屋新幹線公害訴訟をテーマに取り上げて原告団長にも取材に行きました。

この度、山田先生から 2022 年 10 月 1 日に復旧した只見線を応援するべく乗りに出かけませんか、とのお誘いを頂き創部当時のメンバーと旅に出ました。

～只見線は 2011 年 7 月 30 日、新潟・福島を襲った豪雨により複数の橋梁等が損傷し、会津坂下駅 - 小出駅間が不通になりました。～



撮影地点です
Google map

そこで少年の血が騒ぎ、
磐越西線を走る「SLばんえつ物語号」にも乗車し、且つ、会津若松駅からレンタカーを利用して撮り鉄を加えました。

新津へ戻る「SLばんえつ物語号」は会津若松駅 15:27 発。
レンタカーで先回りして尾登駅と日出谷駅付近で撮影。

翌日は会津若松駅 13:05 発の只見線に乗車する前にビュースポット：只見川第一橋梁で撮影しました。

参加者

山田直巳先生 (S45 1970 ~ S55 1980 国語科教諭)

沖山秀司 (S49 卒 1974)

滝沢弘明 (S49 卒 1974)

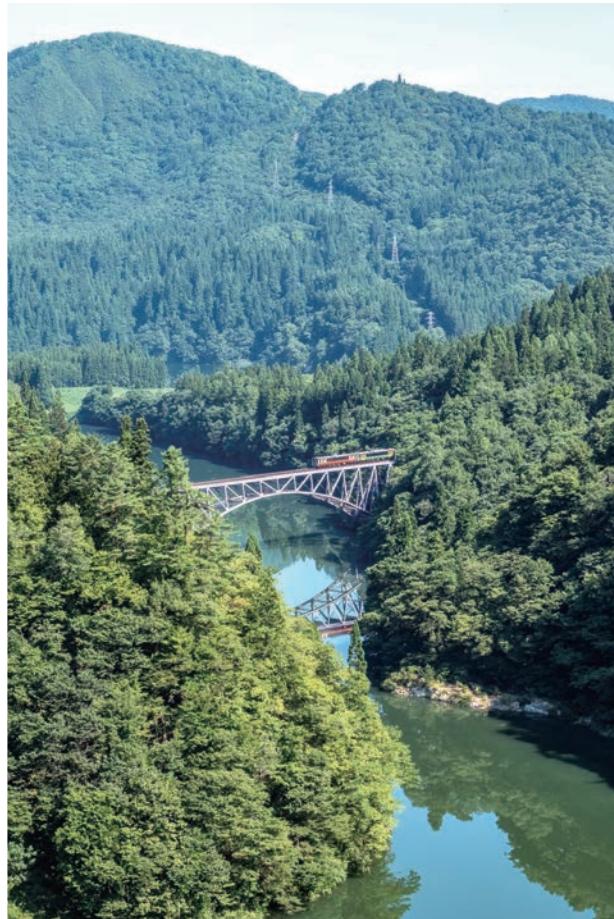
上野 貢 (S51 卒 1976)



右側から、山田先生、滝沢、上野、沖山（新津駅にて）

只見川 第一橋梁

橋梁を見下ろす撮影ポイントへは、国道 252 号線
道の駅「尾瀬街道みしま宿」に駐車して徒歩 5 分



山田先生（右）と上野君（創部時は中1）



撮影地点です
Google map



撮影地点です
Google map



【2025 年 磐越西線にて】



【1975 年 大井川鉄道にて】

卒後、初めての OB 会旅行で大井川鉄道に行きました。
あれから 50 年目の旅でした。

「目的と手段の明確化」を教わったのも山田先生からです。社会に出てから大変役立ちました。

トピックス

《復刊》

『若い人達へ／この道を往く』 天野貞祐(13代校長)／小池辰雄(14代校長)著
獨協中学・高等学校図書館 発行

小泉均さん(昭和52年卒)の尽力により復刊。小泉さんは、スイスのバーゼルの伝統ある工芸学校 Allgemeine Gewerbeschule に留学し、世界で認められるグラフィックデザインを習得。多くの学校で教鞭をとられました。元長岡造形大学教授。現在は、プライベートプレスを起業。以下は、小泉さんによる本のご紹介です。

半世紀前の校長先生が今甦る。獨協精神をこの一冊で知れる。

Winkelhaken-Bücherei Nr. 3 『若い人達へ／この道を往く』
天野貞祐／小池辰雄著 獨協中学・高等学校図書館 発行

叢書シリーズ待望の第三弾は中等教育の基本中の基本。
高等教育以前に倫理教育がいかに重要かを丁寧に説明している。

1970年代、当時の名誉校長の講演「人間論」と質疑を記録したもの、そして当時の校長による学園での心構え。それぞれが読みやすくなつて、復刊。在校生や卒業生でない方もドイツ哲学や獨協精神などの一端を一息で知ることができる。著者は明治時代生まれの教育者たち。ひとりは天野貞祐先生、戦後、文部大臣まで務めた豪快なカント哲学の研究者。

もうひとり小池辰雄先生、キリスト道と唱えながら、いかなる宗派にも属さない自由なドイツ文学者、詩人。



ISBN978-4-909178-03-9

・ペーパーバックオンデマンド(POD)
B6判変型 127x167mm 本文156ページ

ASIN: BODNNZN5T3

・電子書籍(Kindle本)

いずれも 1,200円+税 amazon マーケットプレイスにて 好評発売中。

アマゾン限定: 一般書店では販売していません。

お問い合わせ:

<https://typeshop-g.co.jp/publish>

発売元: タイプショップg プレス

〒116-0014 東京都荒川区東日暮里5-12-8
(担当=小泉)

電子メール: press@typeshop-g.co.jp



ペーパーバック
オンデマンド

電子書籍

OB会の発足・クラス会の開催など、お手伝いいたします

同窓会名簿は、悪徳業者に利用されないよう、個人情報保護の観点から2010年版を最後に発行を中止しています。しかし、会員の利用目的に沿って必要な情報を提供していますので、事務局までお問い合わせください。

鉄道研究部は創部50年を経て、OB会が発足しました。現在、OB会が存在していないクラブの皆さん、OB会組織に向けた活動をサポートいたします。

獨協同窓会 公式LINEアカウント

獨協同窓会の公式LINEアカウントでは、各種行事や同窓会、同窓生に関する情報を適宜発信しています。QRコードから「友だち登録」をお願いします。

<https://lin.ee/96pBL8N>



昭和38年卒英語科 英語クラス同期会

辻 定利 (昭和38年卒業)

高齢の38年卒英語クラス同期会が、酷暑の令和7年7月7日、例年通り上野公園内「韻松亭」にて開催され6名が集う。今回は12年ぶりに出席する人が急病となり不参加となった残念な話から始まり、ゴルフ目的変更など80歳としての、恒例の健康の維持管理の話題からのスタートである。

縁あって、獨協の名のもとに学び過ごしてきた日々を顧みながら過去と現在の大学入試の矛盾や現在の米国と日本の問題点の話、高級官僚と縦割り官庁の弊害などの指摘、この会合の将来の在り様など、今日も青春に戻った貴重な展開となる。これまでの各自の生涯を語りあう場面もあり、充実したひとときであったといえよう。

昨今の健康状態などを考慮すると、33年続いたこの会合が、皆の出席がいつまで続くのかと一抹の不安を抱えながら連絡役は散開とした。



古川38会

遠藤和男 (昭和38年中学卒業)

本年の古川38会は6月8日(日)品川一味玲玲で開催いたしました。

出席者: 11名 / 石山、佐藤、高濱、矢島、小曾根、松丸、高野、横山、野原、斎藤、遠藤

欠席者: 9名

千葉 脊柱管狭窄症手術後ままならず、急きょ欠席。

吉澤 遠藤さん、いつもご連絡をいただき有難うございます。私は、東京都警備業協会で講師をして週数回は講義をしています。6月は予定がダブりました。

塚本 相変わらず業務用太陽光発電所のメンテナンスをやっています。体調は良いです。

鶴岡 喜寿の祝いを家族と共にしました。子供夫妻(3組)孫7人、一緒に楽しく過ごしました。

菅野 いつも遠藤君他幹事の方、ありがとうございます。自分は年相応に元気ですが酒量がめっきり減りました。昨年仕事も自治会長も退任し毎日が日曜日ですが、今度は社会福祉協議会の事業部長を押し付けられ今まで社会に貢献してこなかった分お返しです。

外山 いつもご案内ありがとうございます。当日は趣味で続いているヨットレースがあり参加できません。皆様によろしくお伝えください。

中村 ごめんなさい。その日は商店会の総会と重なり残念ですが欠席します。続けてお会いできなくてスミマセン。

渡部 皆さんの健康と長寿を祈念いたします。また、会える機会があれば幸いです。

中島 あまり体調が良くないため欠席させていただきます。

小尾 残念ながら今回は欠席させていただきます。

返信なし: 11名 / 菅原、香西、松村、松目、前田、松本、諫早、石塚、山田、辻野、岡田

物故者(確定) 10名 / 伊藤、米沢、西田、金住、高柳、長田、内田、小松、須田、笠原

所在不明者: 13名 / 藤田、竹岡、中山、藤原、三品、新井、浅野、田端、武居、徳江、田中、江澤、関根
以上総数55名



独協中学3組クラス会

渡辺 岳 (昭和41年卒業)

令和7年7月10日(木)に池袋 青龍門にて独協中学3組のクラス会を開催しました。前回の開催が令和元年でしたので、6年ぶりの再会となりました。この6年の間に逝去された、五十嵐君、清水君、小泉君、笛本君、藤田君、斎藤(憲)君のご冥福を心よりお祈りいたします。今回は参加しやすいように平日の昼間に開催し、横山先生を含め10名が出席しました。田中(準)君、岡田君は14年ぶりの出席で、話が尽きずあつという間に3時間が過ぎました。横山先生は90歳になられましたが、相変わらずお元気なご様子でした。来年も皆が元気で再会できることを願い、閉会となりました。

出席者(写真左から):三本木、小林(宏)、横山先生、佐伯、小野、中村(直)、田中(準)、岡田、成川、渡辺(渡辺・記)



『吉でん』昭和43年卒吉田先生クラス会

高橋 博 (昭和41年卒業)

2025年8月3日、先生の米寿祝いを兼ねて開催する予定だったクラス会を1年遅れで開催しました。昨年のクラス会は先生の突然の逝去で開催が叶わなくなってしまったため、先生の奥様とご子息お二人をお招きして、湿っぽくならない「偲ぶ会」として大崎ニューオータニインで開催しました。幹事としては出来るだけ大勢の参加を目指んだのですが、当時のクラスメイト55名中連絡可能なのは30名。15名は住所・連絡先不詳、10名は既にこの世を去り鬼籍に。今回連絡できたクラスメイトのうち2名もこの2年間に亡くなっていました。

残る28名も施設入居してしまった者や、腰痛がひどく長距離の歩行困難とか、健康状態が優れなかつたりと、さすがに全員後期高齢者の集いは人数集めが大変と実感した次第。当日の参加は9名と大分少人数になってしまいましたが、ご家族から先生らしい晩年の生活ぶりを伺ったり、ご家族の知らない教え子からのエピソードをご家族に紹介したりの、楽しいひと時を過ごすことができました。機会があれば、少人数でも、またご家族をお招きして集まりたいとの全員の思いを胸に散会しました。



第10回獨窓会

青木秀夫 (昭和45年卒業)

開催日: 2025年10月24(日)

場所: 赤羽魚鳥傳酒場

1964年4月入学1970年3月卒業。出入りはあるが総勢35名の独逸語クラス6年間クラス替え無し。主管は中1・2年は新宮先生、中3高1年は金先生、高2・3年は大久間先生。かつて3主管をお呼びしての獨窓会。懐かしい。今や3主管の先生も故人。寂しいね。昨年(2024年)4月早川君亡くなった。

故人はほかに一柳・金田・高田君。今連絡取れるメンバー22名。



クラス会だより

獨窓会 80 歳迄は毎年続けたいものです。連絡取れないメンバー：池谷・内田・大迫・河内龍・高安・野呂瀬・服部・福田君。ご存知の方はお教えください。

2026 年第 11 回獨窓会は 8 月 24 日（日）12 時赤羽の赤羽商店で開催します。

立川昼飲み会

岡田 裕宏（昭和 46 年卒業）

2025 年 6 月 22 日（日）梅雨の合間とはいえ、真夏のような暑さの中、S 41 年（1966 年）獨協中学、高等学校に赴任され、S 46（1971 年）までの 5 年間お世話になった石井征次先生との昼飲み会を「敢行」しました。石井先生は、ご存じのように国語の教鞭をとられ、高校時代は主管も務められ、また獨協埼玉中学高等学校の校長も務められた先生ですが、今回「敢行」と表現したのは、現在石井先生が闘病中と伺いながらも、この日に体調を合わせていただき、我々のわがままにお付き合いいただいたことからです。場所は、先生の庭もあり、なじみのお店である立川「良銀」。先生含め 10 名の猛者（当時の問題児）が集まりました。

先生に会うまでは、「やつれた顔をされているのではないか?」、「体重もかなり減っているのではないか?」、「本当に酒なんか飲んで大丈夫なの?」などなど。しかし、先生にお会いして現在の病状を伺い、それに（先生曰く）予定のビール 2 杯、ワイン一杯をたしなまれている様子を拝見し、その懸念は吹っ飛びました。

考えてみれば、先生だけでなく、（わずか?）9 歳年下の我々自身も（健康への）爆弾を抱えている仲間が多いわけで、先生の挑戦は、他人ごとではなく我々へのエールにもなっています。

酔うほどに、やはり昔の話や、健康の話になりましたが、当時の我々生徒ではうかがい知れない先生方の話も飛び出し、今は亡き太田朝博先生（卒業時 6 組主管）の根岸のご自宅に良く泊まつたことや、太田先生の奥様、由美さんの下町っ子気質にほれぼれした話など、「えっつ!」と思わず「本当ですかあ?」という話も飛び出し、楽しい話は尽きませんでしたが、次回までには平癒し、再会することを願って、一本締めて散会しました。写真は、なかなか全員の意思がそろわざ 2 枚で全員集合でとなりましたが、左手前から、桂（卒業時 4 組）、黒澤（7 組）、杉本（4 組）、岡本（4 組）、山田（7 組）、右奥から白田（4 組）、坂下（7 組）、石井征次先生、岡田（6 組）、小川（3 組）と、卒業時のクラスに關係なく愛されていた石井先生です！また是非お会いしましょう！

獨協ハーフ会

西原由恭（昭和 53 年卒業）

9 月 27 日（土）に毎年恒例の獨協ハーフ会（獨協高校昭和 53 年卒・有志の会）が都内の某ホテルで開催されたのでご報告いたします。

同期の小松世幸君の千葉県松戸市歯科医師会会长ご就任のお祝いも兼ねて行ないました。

本学卒業して 50 年近く経ちました。恩師、富岡卓・山田直巳両先生を囲み楽しく会食…。

還暦過ぎても、皆さん益々元気、元気、笑笑。

なんとまだ子供が 8 歳の双子を持たれている御仁もいて一同ビックリ、笑笑。そんかんだで一次会、二次会もあつという間に終了。

また来年 お会いしましょうね。



クラス会だより

昭和51年中学卒業2組同級会

杉浦宏詩（昭和51年中学卒業）

3月2日昼に新宿三丁目「満月廬」にて昭和51年中学卒業2組・紀内恒久先生担任クラスの同級会を開催しました。

私達の学年は中学3年間クラス替えが無かったため、今でも出席簿の1番から49番まで名前を誦じることが出来るほどです。何十年ぶりに会うメンバーもいて、最初は「あなたは誰？」状態でしたが、いざ話し始めるとみんな昔の同級生に戻って会話が止まらない状況で、あっという間の2時間でした。この日は19名が出席。担任の紀内先生がご存命中に会を開く事が出来なかつたことが唯一の心残りでした。

今後も会を続けていこうという話になり、寺尾君がグループLINEを作ってくれましたので、参加希望の同級生のかたは次のURLにアクセスしてぜひ参加してください。<https://line.me/ti/g/4AeyT66DPA>



卒業30周年記念同窓会

瀧澤拓也（平成7年卒業）

平成7（1995）年3月に卒業した同窓生52名が参加し、令和7（2025）年5月18日（日）池袋サンシャインクルーズ・クルーズにて卒業30周年記念同窓会を開催しました。

当日は、卒業時学年担当でした井上修先生にご臨席賜り、また残念ながらご参加できなかった小室邦雄先生、木村重利先生より温かいメッセージを頂戴し、同窓生一同昔話に花を咲かせました。

この世代は、それぞれのグループで小規模な同窓会は開催していたものの、こうして学年全体で一同に会する催しは卒業以来初めてのことでした。

30年ぶりに再会しましたので、2時間という時間はあっという間に過ぎ、発起人である高須二郎の中締めで盛り上がりは最高潮に達し、最後は全員で校歌を斉唱して散会しました。

次回開催は10年後？でしょうか。今回集まれた同窓生も集まれなかった同窓生も、また次回元気に再会しましょう！！



日本大学歯学部獨協会

小泉信隆（昭和48年卒業）

「松本直行先生 鶴見大学歯学部教授就任祝い並びに東京都歯科医師会会长井上恵司先生への感謝の会」

16年前に獨協高校出身の歯科医師の団体「歯科医師獨協会」が設立され、現在日本大学歯学部卒の滝川国勝先生が会長をされています。そのうち日本大学歯学部卒の会員は約90名（歯科医師獨協会会員数：約900名）です。

令和6年4月に日本大学歯学部卒の松本直行先生が、鶴見大学歯学部病理学教授に就任されました。また、同大学卒の井上恵司先生は、令和3年より2期4年東京都歯科医師会会长を務められました。



クラス会だより

そこで、令和7年4月12日に銀座アスターお茶の水賓館において表記の会を開催しました。祝宴前に、井上会長より東京都歯科医師会の現況のご報告、続いて松本直行教授より病理検査に関するご講演をして頂きました。

瀧川国勝会長のご挨拶、御両名への記念品（グラスと獨協グッズ）贈呈後、祝宴が開催されました。

井上恵司先生は、本年東京都歯科医師会会長を退任されましたが、令和7年6月より日本歯科医師会監事

に就任されています。多くの歯科大学には獨協出身の教授が就任されており、他にも多方面で多くの方が活躍されています。

追記：個人情報保護法の関係で同窓生の把握が難しくなっています。獨協高校出身の歯科医師の方がいらっしゃいましたら、下記までご連絡ください。

小泉歯科医院 小泉信隆

T E L : 03-3681-9172 FAX : 03-3681-9174

e-mail : koizumi-shika001@mint.odn.ne.jp

萩野元祐先生 講道館八段昇段お祝い会

鈴木成之（昭和53年卒業）

開催日：2025年6月28日（土） 会場：代官山ハイライフポークテーブル店

本年4月30日、講道館最高審議会において八段の昇段が承認された萩野元祐先生のご昇段お祝い会が、6月28日、代官山ハイライフポークテーブル店を貸し切り行われました。出席者は32名。なかには知らせを聞いて30年振りに駆けつけたというメンバーもいて、多くのOBが久しぶりに集う会となり、皆で萩野先生のご昇段をお祝いさせていただきました。



開催予定のお知らせ

第3回 獨協同窓会 関西支部の集い

谷口有三（昭和53年卒業）

獨協大学同窓会の中でも最も長い歴史を持つ関西支部に“間借りする”カタチで、第3回「獨協同窓会 関西支部の集い」を開催いたします。

- 日 時：2026年（令和8年）3月1日（日）正午より
- 会 場：ハートンホテル西梅田「レストランガーデン」
(大阪駅から傘を差さずにアクセスできます)

当日は、姫路獨協大学のOB・OGの皆さんもご参加ください。ALL DOKKOY “天野イズム”という共通の価値観を持つ仲間同士で、楽しい語らいのひとときを過ごしましょう。

また、和歌山放送で活躍されている柘植会長の軽快な進行によるbingoゲームも予定しており、盛り上がること間違いないです。

関西在住の方はもちろん、出張や旅行で関西に滞在中の方も大歓迎です。

ぜひご家族と一緒にご参加ください。

＜参加お申し込み・お問い合わせ＞

発起人代表：谷口有三（昭和53年卒）メール：yubahn3@gmail.com 携帯電話：090-2413-5003



私の近況

●先日、今年4月に玉川氏が亡くなられた。どうやら私一人が生き残りとなったかな？ 96才今の所元気です。しかし出掛けるのが億劫でついつい欠席となります。皆様によろしくお伝え願います。

　　＜石井進（昭和20年卒）＞

●この頃は毎日船に乗ってるよう

毎日が不要不急のひもすがら

血統書付き雑種を引いてお散歩道

八十路坂峠を越えて何処へ行く

意地張ってケアハウスの前一万歩

（以上川柳）

　　＜前田良祐（昭和37年卒）＞

●元気なうちに医業をやめて10年になります。埼玉の本庄に移住してゆっくり生活をしています。仕事は本当に忙しかった。　＜蛭名大介（昭和38年卒）＞

●81歳まだ元気です。月2～3回東京へ出掛けています。　　＜大沢庄平（昭和38年卒）＞

●高等学校卒業から62年、令和5年5月に肺癌（扁平上皮）手術、どうにか並大抵の生活を営んでいます。又、14年パート稼業も10月で卒業、その後はボランティア活動中心にいこうと思う今日此の頃です。（追伸）同期の永田敏夫君が令和5年6月8日に死去された。　　＜石山賢一（昭和38年卒）＞

●現在CIDPの疑いのため入院中。傘寿のお祝いを10月4日（土）に決め準備をしています。入院は絶好のチャンスと思い頭を整理しています。

　　＜宮田雅則（昭和39年卒）＞

●執行部の皆様、日々お忙しい中、同窓会発展のためにご尽力頂きありがとうございます。今後とも宜しくお願い申し上げます。

　　＜櫻田可人（昭和40年卒）＞

●昭和45年卒業から55年。70代後半へ突入間近か。そろそろ終活を考える此頃。独協通信の諸兄の元気さを楽しく拝見しております。

　　＜千葉実（昭和45年卒）＞

●現在大病にも罹らず何とか診療を続けています。

　　＜江並朝猛（昭和48年卒）＞

●昨年度より同窓会役員として微力ながら同窓会の発展のため支えています。　＜窪田潤（昭和48年卒）＞

●72才になりました。私は何故か今が青春のようです。地域の序3名とギターを奏でながらフォークソングを歌っています。不思議と全員「辰年生まれ」なんです。最近2人増えました。キーボードをやる人とギター1人。また同じ年齢でした。72才の青春いいます。　　＜田原理一郎（昭和48年卒）＞

●同窓会副会長の任期を終わりました。継承してくれた後輩の執行部に引き継がれ、ますます同窓会の発展を確信しています、同窓生皆さんは会費の納入と総会と獨協際への参加を御願い致します。

　　＜谷田貝茂雄（昭和51年卒）＞

●東京と兵庫県西宮市の二拠点生活が始まったことに伴い、西日本で生活する獨協生の集いの場を作ろうと獨大同窓会関西支部会合に間借りして活動して

います。All Dokkyo の知り合いが増え嬉しく思っています。　　＜谷口有三（昭和53年卒）＞

●S 53年卒です。長男もH 20年本学卒業です。長男に待望の男子が2年前に授かりました。三代続けて独協生…いいですね～笑笑。

現在歯科医師独協会の日大松戸の代表幹事をしております。独協卒の歯科医師の方は歯科医師独協会よろしくお願ひいたします。

　　＜西原由恭（昭和53年卒）＞

●区民事務所歴も9期となりました。長女は社会人4年目、次女は専門学校2年、長男も無事高校に入学できました。　　＜藤島一郎（平成7年卒）＞

●卒業して15年が経ち、子供も2人生まれ、学生時代には想像もできないようなにぎやかな日々を過ごしています。また子供と文化祭に遊びに行ければと思います。　　＜矢澤知之（平成22年卒）＞

●卒業から13年、色々なことがありました。大学入学や就職、海外出張。たくさんの経験が私を成長させてくれました、横に。。。。

卒業当時58kgだった体重が69kgと年1kgペースで増えています。　　＜清水創己（平成24年卒）＞

●現在、ドイツ語学科に在籍し、言語だけでなくドイツの歴史や社会についても幅広く学んでおります。将来的には、日独の架け橋になることを目指し、学業に励む日々です。学外では5つのサークルと4つのアルバイトも並行して行っています。多忙ではありますが、様々な経験を通じて多くの人と会うことができ、非常に充実した大学生活を送っております。　　＜狩野晋一朗（令和7年卒）＞

●日本橋にある予備校で毎日勉強しております。来年こそは第一志望の打楽に合格して母校に良い報告が出来るようにしたいです。

　　＜菊一馬比呂（令和7年卒）＞

●ちゃんと遅刻しないように通学しております。

　　＜垣花昌太（令和7年卒）＞

●元気に大学生活を送っています。卒業して増え思う獨協の良さ、最高!!　　＜斎藤大河（令和7年卒）＞

●2ヶ月ほど前から大学生活という新たな生活が始まりました。色々と変わった事もあり大変ですが、サークル活動など楽しい事がたくさんあります。これからも学業を疎かにせず、大学生生活を楽しんでいきたいです。　　＜篠原悠熙（令和7年卒）＞

●現在、浪人中で予備校で勉強頑張っています。

　　＜福元添心（令和7年卒）＞

●私が獨協を卒業してから数ヶ月が経ち、不慣れだった大学生活も段々と慣れてきました。それでもふと獨協にいた頃の生活を何らかの形で思い出してしまうことがあります。その上不思議なことによく同級生とも連絡を取ったり遊んだりしているので獨協はいつまでも自分の生活の伴侶であるのだなあと思うのです。　　＜渡部翔太（令和7年卒）＞

同窓会への要望

●春の独協通信の送付が遅いので、5月末までの到着をお願いします。 <木田宏海（昭和46年卒）>

●今後は出欠をWebでできればと思います。
<荷見源成（昭和48年卒）>

●近況ではありませんが、同窓会費の支払い方法にネットバンキングやクレジット払いなど追加頂けないでしょうか。手数料の問題は発生するかとは思いますが、同窓会費の入金増加に寄与すると思います。
<大橋英紀（昭和52年卒）>

寄付金納入者一覧（「104号」以降）

（敬称略）

野村 恭弘	（昭和 30）	10,000	（匿名）	（昭和 41）	100,000	鈴木 敏彦	（昭和 52）	10,000
下田 裕	（昭和 30）	10,000	大隅 敏彦	（昭和 41）	10,000	大橋 英紀	（昭和 52）	20,000
土生 裕	（昭和 30）	10,000	浅野 一	（昭和 42）	30,000	岩瀬 彰彦	（昭和 52）	10,000
井上 正巳	（昭和 32）	（匿名）	宮崎 輝雄	（昭和 42）	10,000	川原 純一	（昭和 52）	10,000
横井 俊明	（昭和 33）	20,000	杉山 満	（昭和 42）	10,000	遠山 洋一	（昭和 53）	10,000
塙崎 晴朗	（昭和 34）	10,000	（匿名）	（昭和 42）	30,000	（匿名）	（昭和 53）	10,000
福井 晃	（昭和 34）	10,000	井原 泰樹	（昭和 43）	20,000	野村 芳樹	（昭和 54）	10,000
岩佐 峰彦	（昭和 34）	20,000	村上 順	（昭和 43）	10,000	岩永 聰	（昭和 54）	100,000
小平 晋士	（昭和 34）	30,000	北島晴比古	（昭和 44）	10,000	大谷 文敏	（昭和 54）	10,000
（匿名）	（昭和 34）	（匿名）	長山 和夫	（昭和 44）	10,000	渡辺 藏人	（昭和 55）	（匿名）
吉本 明康	（昭和 34）	10,000	千葉 実	（昭和 45）	10,000	菅谷 敦人	（昭和 58）	（匿名）
大沢 悠里	（昭和 34）	20,000	西原 潔	（昭和 46）	10,000	山崎 博之	（昭和 59）	10,000
昭和34年卒絆の会		119,000	小川 守一	（昭和 46）	10,000	吉松 栄彦	（昭和 59）	10,000
鈴木莊太郎	（昭和 35）	20,000	武井 雅史	（昭和 46）	10,000	行川 恭央	（昭和 63）	5,000
里見 治	（昭和 35）	50,000	白川 善之	（昭和 46）	25,000	西野 裕仁	（平成 2）	10,000
（匿名）	（昭和 35）	10,000	上田 善彦	（昭和 47）	30,000	高野 宗之	（平成 8）	30,000
松木 益道	（昭和 36）	5,000	森 一博	（昭和 47）	10,000	國松 常芳	（平成 10）	60,000
黒川 曜美	（昭和 36）	10,000	荻野 和律	（昭和 48）	10,000	堀切 教平	（平成 11）	10,000
豊田 守人	（昭和 37）	10,000	（匿名）	（昭和 48）	（匿名）	矢澤 知之	（平成 22）	10,000
益井 邦夫	（昭和 37）	10,000	（匿名）	（昭和 48）	（匿名）	稻葉 由樹	（平成 23）	（匿名）
三好 淳一	（昭和 37）	10,000	山本 和彦	（昭和 49）	5,000	（匿名）	（平成 29）	10,000
小西 彰	（昭和 38）	50,000	岡崎 修	（昭和 50）	10,000	大竹 雅也	（平成 29）	（匿名）
大沢 庄平	（昭和 38）	10,000	渋谷健一郎	（昭和 51）	（匿名）	渡部 真徳	（令和 4）	10,000
黒田 政俊	（昭和 40）	10,000	池田 亮	（昭和 51）	10,000			
渡辺 隆之	（昭和 41）	10,000	伊藤 英一	（昭和 52）	10,000			

ご協力ありがとうございました。今後とも会費納入および財務拡充のご寄付をよろしくお願い申し上げます。

獨協同窓会は任意団体のため、寄付金控除制度の対象になっていません。

確定申告での所得控除や税額控除は受けられませんので、予めご了承ください。

物故者名簿（『独協通信』104号以降）ご冥福をお祈り申し上げます

卒業年	氏名	物故年月日	昭和 33 年	横井 俊明	2025/5/3	昭和 40 年	佐野 俊哉	2025/7/6
昭和 18 年	神嶋 禮次郎	2025/2/1	昭和 33 年	佐藤 寿	2025/4/30	昭和 41 年	小川 雅博	2014
昭和 19 年	植田 理彦	2025/1/8	昭和 34 年	小泉 慶一	2025/2	昭和 41 年	藤田 雅弘	2024/8/25
昭和 22 年	日根野 光	2022/12/12	昭和 34 年	安蒜 英雄	2025/1	昭和 41 年	笹本 隆夫	2024/9/2
昭和 22 年	堀川 勝夫	2024	昭和 34 年	老川 武	2024/12	昭和 41 年	松本 守正	2025/5/6
昭和 24 年	秋山 勇	2023/3/11	昭和 35 年	松尾 正文	2024/6/11	昭和 42 年	古谷 清久	2025/1/19
昭和 25 年	本田 光芳	2024/10/9	昭和 36 年	高島 康	2024/6/8	昭和 44 年	佐藤 裕	2014/10/6
昭和 26 年	油井 信春	2024/12	昭和 36 年	渋谷 大陸	2025/2/20	昭和 44 年	小島 健一	2015/8/29
昭和 26 年	向井周太郎	2024/10/24	昭和 36 年	町田 角世	2025/1/8	昭和 44 年	電 貴省	2025/8/31
昭和 27 年	打矢 泰愛	2023/7	昭和 38 年	副田 正	不明	昭和 49 年	杉野 真也	2017/12/23
昭和 29 年	兼平 滋	2014	昭和 39 年	松岡 晉	2025/1/6	昭和 49 年	岩野 政宏	2025/3/3
昭和 29 年	町田 裕一	2024/5/17	昭和 39 年	江川 英伸	2025/3/31	昭和 49 年	菊地 章嘉	不明
昭和 30 年	下田 裕	2025/6/20	昭和 39 年	大塚 正行	2025/4/2	昭和 49 年	立川 暢英	2025/1/8
昭和 31 年	垣外中広治	2025/1/5	昭和 39 年	武田 敏雄	2020/3/12	昭和 50 年	松村 大治	2017/7/21
昭和 31 年	川口十三郎	不明	昭和 39 年	守屋 佳輝	2025/8/1	平成 01 年	町田 庄司	2023/9/29
昭和 32 年	飯田 英雄	2024/12/15	昭和 40 年	西田 康宏	2024/11/11			
昭和 33 年	荒井 桂	2024/10/16	昭和 40 年	平岡 具隆	2025/1/10			

～甲状腺を病む方々のために～

ITO HOSPITAL 伊藤病院

院長 伊藤公一（昭和51年卒）

TEL. 03-3402-7411 東京都渋谷区神宮前4-3-6 www.ito-hospital.jp

NAGOYA
名古屋甲状腺診療所

TEL. 052-252-7305
名古屋市中区大須4-14-59
www.kojin-kai.jp/nagoya/

医療法人社団甲仁会
理事長 伊藤公一

SAPPORO
さっぽろ甲状腺診療所

TEL. 011-688-6440
札幌市中央区大通西15丁目1-10 ITOメディカルビル札幌5F
www.kojin-kai.jp/sapporo/

医療法人社団 野村会

理事長 野村 芳樹（昭和54年卒）

2025年10月開院

昭和の杜病院附属

昭島透析クリニック

透析ベッド25床

快速に過ごしていただく事にこだわった

外来透析専門クリニック

東京都昭島市中神町1147-70

TEL: 042-519-2292

SASAKI LAW OFFICE 佐々木綜合法律事務所

東京都千代田区神田須田町1丁目26番 芝信神田ビル10階

TEL 03-3255-0091 FAX 03-3255-0094

相続・不動産・企業法務など
さまざまなお悩みを承っております。

お気軽に
お問合せ
ください

東京弁護士会所属
弁護士 佐々木 広行（昭和61年卒）
〔平成28年度 東京弁護士会副会長〕

駒込みつい眼科

東京都文京区本駒込6-24-5-4F

[最寄駅] 東京メトロ南北線駒込駅1番出口前 / JR駒込駅南口 徒歩1分

TEL: 03-3943-8765

白内障日帰り手術、緑内障診断、レーザー治療、小児の斜視弱視治療
眼瞼・顔面けいれんへのボツリヌス療法、コンタクトレンズ・眼鏡処方

院長 三井 義久（昭和63年卒）

宇宙開発のプロジェクトマネジメントで
会社が成長する仕組みを作る



LAGRAPO

株式会社ラグラボ

代表取締役社長
高野 宗之（平成8年卒）

経歴（担当実績）
三菱重工業 H-IIAロケット設計
JAXA HTV（こうのとり）開発

電話：03-6824-0833
メール：contact@lagrapo.co.jp



お問合せ、お待ちしております。

院長 清水 崇裕（平成17年卒）

薄毛治療ならベアAGAクリニック

・薄毛でお悩みの獨協卒業生の皆様、お気軽にご連絡ください（獨協割あり）。

〒160-0022 東京都新宿区
新宿3丁目14-22 小川ビル4階

<https://www.bea-agaclinic.jp/>
TEL:03-5925-8241 *木・祝 休診



同窓会の運営にご協力いただける

平成・令和の卒業生を募集中

独協通信の編集・獨協祭での展示など、同窓会の運営にご参加いただける平成・令和の卒業生を募集しています。歴史の長い獨協には多くの同窓生がいます。同窓会の運営に携わって幅広い年代の先輩と交流しませんか。興味のある同窓生のご連絡をお待ちしています。

email: info@dokkyo-mejiro.com

編 集 後 記

今年もあっという間に押し迫ってきた年の瀬と共に、105号を皆様のお手元にお届けすることができました。

毎回ネタがないと言いながら、なんだかんだ仕上がりてくる独協通信です。

今回から「こんなところに獨協人」として、俳優の友部さんを取り上げさせていただきました。今回が最初で最後にさせないためにも皆さんの周りの「こんなところに獨協人」をご紹介ください。

今年も獨協同窓会にご支援ご協力を賜りありがとうございました。皆さまが来年も素晴らしい年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。

